

第3章 施設及び候補地の検討

3-1 屋内運動施設の検討

黄金森公園の屋内運動施設は、当初は体育館として計画され、その後「平成17年度黄金森公園基本設計」では多目的屋内運動場へと見直しが行われたものの、整備に至っていない。

平成17年から時間が経過し、社会状況が変化していることから、改めて屋内運動施設のタイプについて検討を行うこととする。

(1) 施設タイプによる比較検討

本計画で整備する屋内運動施設をタイプ別（体育館、多目的アリーナ、屋内ドーム）に分類して、施設内容の比較検討を行った。

施設内容について、1) 主な目的、2) 客席数、3) 求められる設備、4) 床材、5) 坪単価、6) 競技・イベント・対象者の6つの項目により、比較検討を行った。

表Ⅲ-1 施設タイプ別比較表

体育館イメージ		多目的アリーナイメージ	屋内ドームイメージ
			
項目	体育館	多目的アリーナ	屋内ドーム
1) 主な目的	屋内スポーツを「する」ことを主目的とする。 ※床仕様により、イベントに「参加する」ことが可能。	屋内スポーツを「観る」こと、イベントに「参加する」ことを主目的とする。	屋外スポーツを「する」こと、イベントに「参加する」ことを主目的とする。
2) 客席数	0～数千人	数千人～1万人 ※プロスポーツ規約等による必要客席数が定められている。	0～数百人
3) 求められる設備	大会等の開催に必要な空調設備。 ※イベント対応の映像、音響設備は任意。	プロスポーツ・イベントに対応する空調、映像、音響設備は必須。	イベントの開催に必要な空調設備。 ※イベント対応の映像、音響設備は任意。
4) 床材	鋼製床組+床材 ※床を耐荷重仕様（2 t/m ² ～5 t/m ² 程度）とすることによりイベント開催可能。	土間+ポータブルフロアまたは鋼製床組+床材 ※床の耐荷重仕様（2 t/m ² ～5 t/m ² ）必須	人工芝等
5) 坪単価	中～高い ※空調設備、客席数、映像、音響により変動。	高い ※プロスポーツ規約等による客席数、設備等が定められている。	中～高い ※空調設備、客席数、映像、音響により変動。
6) 競技・イベント・対象者	次頁、施設タイプ別競技・イベント比較表を参照	次頁、施設タイプ別競技・イベント比較表を参照	次頁、施設タイプ別競技・イベント比較表を参照
総合評価	○	△	×

第3章 施設及び候補地の検討

上記の6) 競技・イベント・対象者施設に関して、体育館、多目的アリーナ、屋内ドームそれぞれで対応可能な競技・イベントは下表のとおり整理した。

(◎：とても適している、○：適している、△：あまり適していない)

表Ⅲ-2 施設タイプ別競技・イベント比較表

No	競技・イベント	対象者	求められる設備	体育館	多目的アリーナ	屋内ドーム	備考
1	硬式テニス	中・高・一般				○(練習)	
2	軟式テニス	中・高・一般				○(練習)	
3	ホッケー	高校・一般				○(練習)	
4	硬式野球	高校・一般				○(ネット有のみ練習可)	
5	軟式野球	小・中・高・一般				○(練習)	
6	ソフトボール	小・中・高・一般				○(練習)	
7	サッカー	小・中・高・一般				○(練習)	
8	ゲートボール	一般				◎	
9	バレーボール	小・中・高・一般	空調・客席	◎	○(床の硬さ)		
10	体操	小・中・高・一般	空調・客席	◎	◎		
11	バスケットボール	小・中・高・一般	空調・客席	◎	○(床の硬さ)		
12	レスリング	高校・一般	空調・客席	◎	◎		
13	ウェイトリフティング	高校・一般	空調・客席	◎	◎		
14	ハンドボール	小・中・高・一般	空調・客席	◎	○(床の硬さ)		
15	卓球	小・中・高・一般	空調・客席	◎	○(床の硬さ)		
16	フェンシング	高校・一般	空調・客席	◎	◎		
17	バドミントン	小・中・高・一般	空調・客席	◎	○(床の硬さ)		
18	柔道	中・高・一般	空調・客席	◎	◎		
19	空手	小・中・高・一般	空調・客席	◎	◎		
20	剣道	小・中・高・一般	空調・客席	◎	◎		
21	なぎなた	高校・一般	空調・客席	◎	◎		
22	フットサル	高校・一般	空調・客席	◎	◎	◎	
23	3on3	小・中・高・一般	客席	◎	◎	◎	
24	ドッジボール	小・中・高・一般	空調・客席	◎	◎		
25	ダンス	中・高・一般	空調・客席	◎	◎	△(舞台、床による)	
26	障がい者スポーツ	障がい者	空調・客席	◎	△(床の硬さ)		
27	老人会の運動会		空調	◎	△(床の硬さ)		
28	保育園の運動会			◎	△(床の硬さ)	◎	
29	バレーボール	プロ化(Vリーグ)	空調・客席・音響・映像	◎※	◎※		※ホームアリーナとして3,000人以上収容
30	バスケットボール	プロ(Bリーグ)	空調・客席・音響・映像	○～◎※(音響映像必要)	◎※		※ホームアリーナとして5,000席以上収容
31	レスリング	プロ	空調・客席・音響・映像	○～◎※(音響必要)	◎※		
32	ハンドボール	2024年からプロ(JHLリーグ)	空調・客席・音響・映像	◎※	◎※		※ホームアリーナとして1,500人以上収容
33	卓球	プロ化(Tリーグ)	空調・客席・音響・映像	○～◎※(音響映像必要)	◎※		※公式戦2,000席以上収容
34	硬式野球	プロ(NPB)	客席・音響・映像			○(ネット有のみ練習可)	※公式戦30,000以上が望ましい
35	サッカー	プロ(Jリーグ)	客席・音響・映像			○(練習)	※15,000人以上収容
36	フットサル	プロ化(Fリーグ)	客席・音響・映像	◎※	◎※		※ホームアリーナとして1,000人以上収容
37	美術展・科学展	一般	空調	◎(シート敷)	◎		
38	物産展	一般		◎(シート敷)	◎	◎	
39	コンサート	一般	空調・客席・音響・映像	○～◎(客席音響映像により変動)	◎	△(客席音響映像により変動)	南風原町公民館500席
40	屋台・キッチンカー	一般					屋外広場併設の場合可能

第3章 施設及び候補地の検討

(2) 施設タイプ別比較結果

体育館は、屋内スポーツを行うことを主な目的とし、小学生から一般まで幅広い層が対象で、バスケットボールやバレーボールなど多様な競技に対応が可能である。

多目的アリーナは、屋内スポーツを観て楽しむことを主な目的とし、一般の方まで利用可能だが、どちらかというところプロが対象となっており、コンクリートの土間に床を置くなど床材が固く、一般の方が利用した場合、膝や足に負担がかかるといった点が考えられる。

屋内ドームは、屋外スポーツを屋内で行うことを主な目的としており、可能な競技に限られるといった点が課題となる。

以上を踏まえ、本計画で整備する屋内運動施設は、多様な競技に対応でき幅広い年代の利用が見込める体育館とする。

3-2 敷地候補地の検討

(1) 敷地候補地の抽出

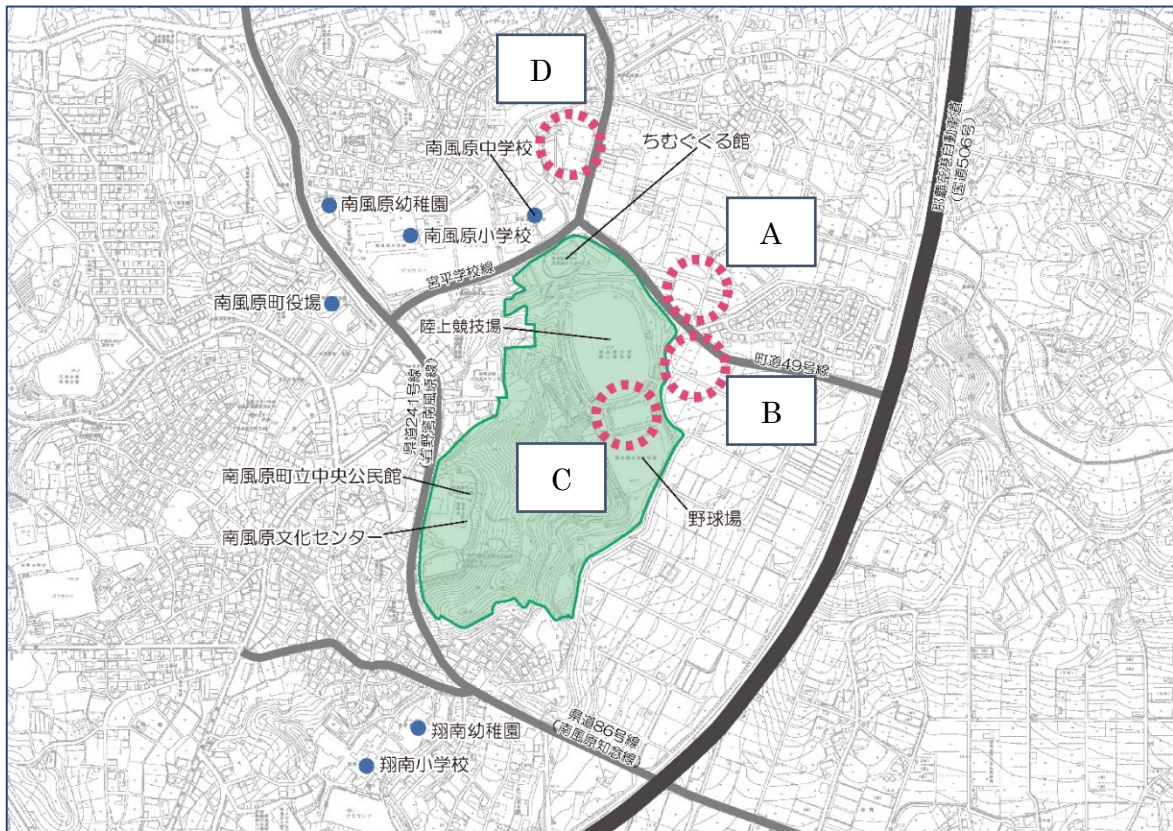
本計画で検討する屋内運動施設は、公園施設として整備を行うものとする。黄金森公園内に敷地を設定するにあたり、公園内の森林は可能な限り保全することを考慮すると、屋内運動施設が建設可能な場所は限られる。

このため、今回の検討にあたっては、公園区域の変更も想定することとし、現在の黄金森公園の区域周辺も含めて敷地候補地の検討を行う。

敷地候補地の位置は、黄金森公園区域及びその周辺で、「宅地利用されていない」、「一団の土地である」、「道路に面する」という条件で、以下の4カ所を抽出した。

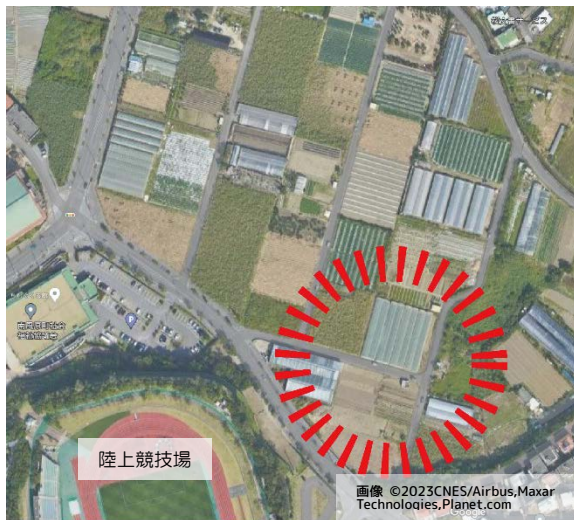
表Ⅲ-3 敷地候補地一覧

敷地候補地	仕様等
A (公園北側)	市街化調整区域。公園区域に近接してまとまった敷地の確保が可能。 町道49号線に面する。
B (公園東側)	市街化調整区域。公園区域に隣接してまとまった敷地の確保が可能。 町道49号線に面する。
C (現駐車場)	市街化調整区域。公園区域内にあり、ある程度まとまった敷地となっている。
D (宮平学校線西側)	市街化区域。公園区域に近接しており、まとまった敷地の確保が可能。 宮平学校線に面する。

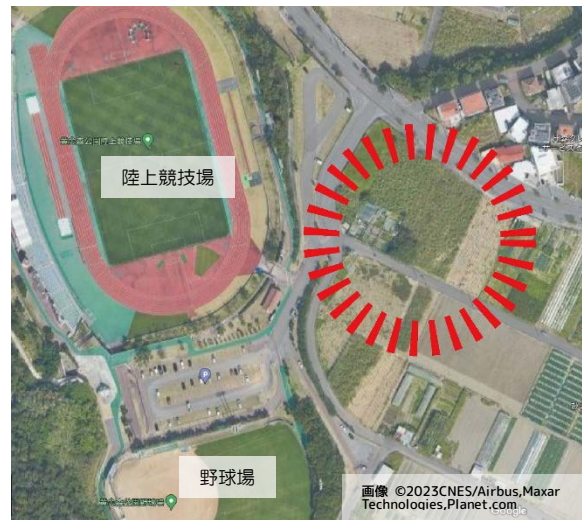


図Ⅲ-1 敷地候補地の位置

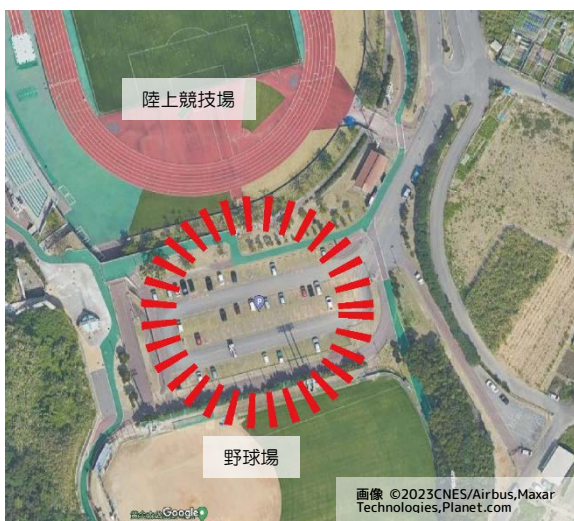
第3章 施設及び候補地の検討



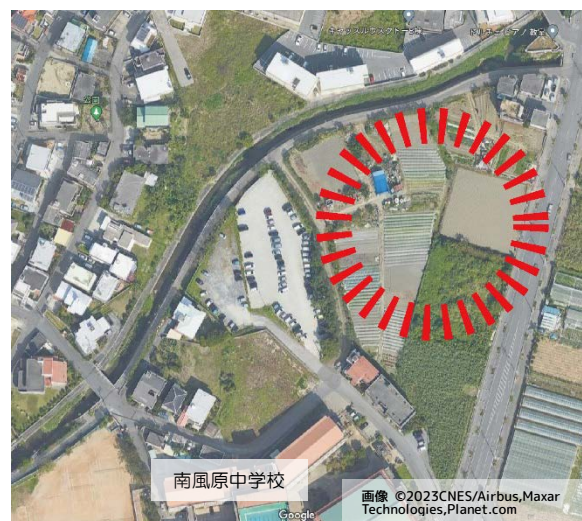
図Ⅲ-2 候補地 A



図Ⅲ-3 候補地 B



図Ⅲ-4 候補地 C



図Ⅲ-5 候補地 D

(2) 敷地候補地の比較検討

敷地候補地について、①敷地の特徴、②公園施設との関係性・一体性、③駐車場計画、④土地利用規制、⑤留意点の5つの項目により、比較検討を行う。

比較検討項目は、以下の考えにより設定した。

- ①敷地の特徴：施設整備にあたり最も基本となる敷地形状の制約を把握するため。
- ②公園施設との関係性・一体性：黄金森公園の施設として、一体性が求められるため。
- ③駐車場計画：施設利用者の使いやすさに係る事項であるため。
- ④土地利用規制：土地利用を行うための手続きについて把握するため。
- ⑤留意点：事業規模（予算）に係る事項であるため。

各項目の評価（○、△、×）の考え方は、以下のとおり。

- ：特段の制約がない場合
- △：何らかの制約がある場合
- ×：大きな制約、影響がある場合

表Ⅲ-4 敷地候補地の比較検討表

	A（公園北側）	B（公園東側）	C（現駐車場）	D（宮平学校線西側）
①敷地の特徴	まとまった敷地の確保が可能である。 高低差があるため、地形を活かした配置計画が必要である。	まとまった敷地の確保が可能である。 高低差があるため、地形を活かした配置計画が必要である。	敷地面積が限られており（約 35m×80 m）、施設計画に制約がでる。 ほぼ平坦であり造成の必要はない。	隣接地は住宅地であり、施設計画に制約がでる。 ほぼ平坦であり造成の必要はない。
	○	○	△	△
②公園施設との関係性・一体性	町道 49 号線を挟んでの配置となる。 他の施設を利用する際の歩行者動線の確保が難しい。	道路を挟んでの配置となるが、道路の付け替えが可能である。 公園区域に隣接した配置であり、一体的な利用が可能である。	公園内であり、一体的な利用が可能である。	公園から離れており、一体的な利用は難しい。
	×	○	○	×
③駐車場計画	まとまった台数の確保が可能である。 他の施設からの移動距離が長くなる。 本施設からのアクセスはしやすい。	まとまった台数の確保が可能である。 他の施設からの移動距離が長くなる。 本施設からのアクセスはしやすい。	施設をピロティ形式にすることで駐車場の確保は可能である。 ただし、駐車台数に制約がでるため、新たな駐車場の確保が必要となる。	まとまった台数の確保が可能である。 他の施設からの移動距離が長くなる。 本施設からのアクセスはしやすい。
	○	○	△	○
④土地利用規制	市街化調整区域。 農振農用地区域であり、農用地除外の手続きが必要である。	市街化調整区域。 農振農用地区域であり、農用地除外の手続きが必要である。	市街化調整区域。 公園区域内であり、特に規制は無い。	市街化区域。 第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域が指定されており、屋内運動施設は原則として建築できない。
	△	△	○	×
⑤留意点	用地購入が必要である。 用地購入に加えて、工作物（ビニールハウス）の補償費用が生じる。	用地購入が必要である。	新たな駐車場用地の購入が必要である。	用地購入が必要である。 市街化区域であるため、市街化調整区域よりも土地の値段は高くなる。
	△	△	△	△
総合評価	×	○	△	×

上記の検討表より、評価項目 5 つのうち○の評価が 3 つとなる **B** を敷地候補地として設定する。